

高知県教育委員会 会議録

平成26年度第4回教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年6月3日(月) 18:10

閉会 平成26年6月3日(月) 20:30

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	高等学校課課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	坂本 寿一
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子(会議録作成)

(4) 教育委員長の依頼により出席した者

須崎高等学校校関係者	保護者代表(3名)
	鳩友会代表(2名)
須崎工業高等学校関係者	保護者代表(4名)
	同窓会代表(4名)

○須崎高等学校関係者 保護者代表、鳩友会（同窓会）代表との意見交換

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 （あいさつ）

本日は今年度、第4回目の協議会となりますが、県立高等学校再編振興計画について、ご意見を賜りますために、須崎高等学校の関係者の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席を賜わり、ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、県立高等学校の振興に向けました、再編や統合という課題への対応につきましては、平成23年9月から県立高等学校再編振興検討委員会で協議していただき、昨年2月に報告書を作成いたしております。昨年度は、その報告書をもとに、具体的な県立高等学校の再編振興のあり方につきまして、教育委員のご意見もいただきながら事務局の方で検討を重ね、12月からは公開の教育委員協議会で議論し、1月末に、再編振興計画の「たたき台」をお示ししたという流れになっております。この再編振興計画につきまして「たたき台」をお示しして以来、再編や統合の対象となっております学校関係者の皆様などから、様々なご意見を賜っているところであります。

これを踏まえまして、県教育委員会としては、改めて関係する学校の関係者の皆様等多くの方々からご意見をお聞きし、丁寧に議論を重ねていく必要があると考えておりまして、本日は須崎高等学校の関係者の皆様にご出席をお願いした次第でございます。

本日は、改めて、「たたき台」や須崎高校と須崎工業高校の統合後の姿について、ご説明をさせていただいたうえで、皆様からご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○意見交換

保護者代表	PTAである。 本日はこのような意見を述べる場を設定していただき、ありがとうございました。 須崎高校と須崎工業高校の統合の話は、先ほど、教育長から話があったが、昨年2月の県立高等学校再編振興検討委員会からの報告書をもとに、県教育委員会が基本的な考え方の案を示し、具体的に前期の計画案ということで須崎高校と須崎工業高校の統合案が示されたと理解している。昨年2月に示された報告書によるとその中で総合学科の配置についても記載されている。その中には、「現在の配置を維持することが望ましい。生徒数の減少が著しい地域では、生徒数の確保が困難な状況も考えられるが、各学校がさらに魅力化を進めることで、その維持に努める必要がある。」との記載がある。この報告書とここで示
-------	--

<p>保護者代表</p>	<p>された須崎高校と須崎工業高校の統合案とでは、若干整合性が取れていないと感じる。</p> <p>また、高吾地区の拠点校との説明があったが、旧4学区、東部、高知、高吾、幡多の中でみると、須崎高校と須崎工業が統合した場合、高吾地区については総合学科もなく、単独の工業高校もなく、単独で進学を目指す学校もなくなってしまう。具体的に高吾地区の教育をどうしていくのかということも考えていただきたい。県下的な高校の配置を考えたいうえで、統合などを検討してもらいたいと考える。</p> <p>P T Aである。</p> <p>昨年度になるが意見交換を須崎高校で行った際に、今の中学生や小学生の保護者の意見を取り入れて欲しいと要望していた。その件で今年度の予定があるようであれば教えてもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合学科の配置の意見であるが、須崎高校は総合学科ということで進めてきたが、たたき台では普通科としている。今まで以上に進路実績を伸ばしていきたいとの考え方で普通科とさせてもらった。</p> <p>小学校、中学校を含めた保護者の意見を聞く場であるが、今はまだ統合に向けてたたき台を検討している段階であるので、時期的にはもう少し後になる。小学校、中学校に絞って意見を聞くものになるかは分からないが、もう少し広く地域の方々も含めたものになるかもしれない。時期的には、今統合に向けての意見を聞く場を重ねているところであるので、その後に、改めてそのような機会を設けたい。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>そのような場を設けるのは、もう少し後でということだが、保護者などから反対の意見が出るかもしれない。反対意見が出た場合、時期が後になることにより、統合に向けての振興が遅れたり、予定通りに進まないということにはならないか。</p>
<p>教育長</p>	<p>そのような可能性もある。我々としては、関係者からできるだけ幅広く意見を聞き、これから高校に進学する中学生や小学生の保護者から意見を聞くことも考えたい。その中では、賛成の意見、反対の意見両方が出ると思う。そこは総合的に判断していくものだと思っている。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>P T Aである。</p> <p>再編に向けて、保護者として心配に思っているのは、高校進学を決めるときに須崎高校なら進学ができる、須崎工業高校なら就職に強いというそれぞれの特性があり、我が子の進路を見極めて高校を考えるわけだが、統合し、普通科3学級になると、どこまで国公立大学進学に対応できるのか、国公立大学以外の短大、専修学校を選択した場合どのようになるのかという点である。就職の希望者も須崎高校に在るが、須崎工業高校より少し難しい面がある。統合して、どこまで対応できるのか、受け皿がどこまであるのかを具体的に例えば、国公立進学特進コースがあるとかを示してもらいたい。全体的に「～します」では、なかなか受け入れられない部分がある。</p>

事務局	資料2の中央に、拠点校としての教育の充実として記載している。説明を省略した点がある。最初に習熟度に応じた授業の実施や、きめ細かなカリキュラム編成というところで、基礎学力を身に付けるところから大学進学まで幅広い学力に応じた支援体制を組みたい。国立大学に特化したクラスも必要になると思っているが、専修学校に向けた指導も行っていかなければならない。また、基礎学力を身に付けるという幅広いものに対応することが習熟度別であるので、そのような対応は行っていく。国立大学も「コース」になるかは別にして習熟度別で対応できるし、教育課程の充実も図っていききたい。就職に向けたメリットとして、須崎工業高校の就職指導の体制、OBの活躍などがあるので、須崎高校が活用できる須崎工業高校のノウハウや人脈はできるだけ取り入れながらお互いが活用できるようにしたいと思っている。
保護者代表	これからは具体的な案を出していただけるのか。これだけでは、イメージが湧かない。具体的にこうなるということを示して頂いた方が良い。
事務局	まだ、統合のたたき台を示し、意見を伺っている段階であるので、今、具体的なカリキュラムとかは示していないが、今後、両校の関係者、教育委員の方々と協議し順次説明の機会を設けて進めさせていただきたい。
保護者代表	部活動の面で、須崎工業高校で強いソフトボール部、野球部、卓球部などは、須崎工業高校に進学して活躍したい生徒もいる。須崎高校では、バレーボール部、野球部、バスケットボール部があり、旧窪川町や津野町から部活動を選び入学している生徒もいる。両校の強い部活動等を統合した場合どのように伸ばしていくのか。部活動で高校を選ぶ保護者もいる。
事務局	須崎高校、須崎工業高校それぞれ現時点で盛んで力のある部活動がある。統合することにより生徒数が増えることになり、より選手層が厚くなるのが考えられる。そして、現在指導されている先生方等が、大人数の中で切磋琢磨させながらやっていくことによって、力を付け発展した部活動体制になる。人数が増えるだけでなく、今までのものをより発展できる部活動の体制を整えていきたい。教員の配置や、施設面も含めて統合の姿を具体的に検討していきたい。
委員長	工業高校と普通高校の合併については全国的にも数が多くない。未知の部分もあるが、全国的に見た時にはこのような学校もできている。今の須崎高校の姿より、より進学希望がかなえられ、今の須崎工業高校の姿より、より就職が有利になる学校づくりをするには、足して2で割るのではなく、普通科、工業科それぞれの特色を前面に出して学校運営を行っていく必要があるのではないかと、我々教育委員のなかでは常に議論をしている。今の状態より悪い状態には決してしたくないという思いを持っている。
保護者代表	資料2の左側では普通科3学級となっており、先ほどの話から進路の方にかなり力を入れてくださるとのことであるが、就職を希望する生徒もいる。今は、総合学科であるので1年生では総合的に学習し、2年生から大学進学クラス、短大・私学進学クラス、就職クラスというような形でいくつかに分かれている。普通科になるとコースを選ぶにあたって、人数が少なくてもコースを確保して

事務局	<p>もらえるのか。そののあたりを強く望むところである。</p> <p>普通科は、基本的に1年生は共通で2年生からコースに分かれることが多く、よくあるのが、2年で文系や理系に大きく分かれるかたちである。具体的にどのようなコースにするかは両校としっかり議論をして決めていきたい。現状でも須崎高校は、3学級規模の学校であるので、生徒数の総数を見込みながら生徒の希望がかなうような形のものにしたいと考えている。ここで具体的にどんなコースとは言えない。細かい部分は今後決めていくが、実態を考えながら決定していきたい。</p> <p>今、総合学科で課題となっているのが生徒の安易なコース選択である。1年生の段階で「産業社会と人間」という授業で自分の将来を考えるが、コースを決定するまで3ヵ月と期間が短いことから十分に考えていないケースもある。普通科になれば、コースを決めることがもう少し後になる。普通科においても、総合的な学習の時間等でしっかりとした進路学習を取り入れるなど、将来を見据えながら、安易な選択ではなく、将来自分が進むべきうえで必要な科目をきちんと選択していくことができる指導を詰めていきたいと考えている。具体的には、学校と協議していくので、安心してもらい、学校の方に保護者の皆様からも意見を言ってもらいたい。</p>
保護者代表	<p>国公立大学、難関大学、医学部等のことが資料にでており、力を入れていただけることは伝わってくる。高知市内高校に負けないような力を付けていただけるぐらいの進学コースがある学校を希望したい。現在でも禰原高校、窪川高校があるにもかかわらず、須崎高校に進学している生徒がいる。その理由は、大学進学ができることが一番の理由だろうと、個人的に思っている。高知市内に通学するには、交通が不便で時間がかかること、家庭の経済的な面など課題がある。須崎高校は大学へ進学できる学校としてここ数年良い実績が残っており、生徒も先生方も頑張っている状況が見えている中で、須崎工業高校との統合の話が出たので、不安に感じている。是非、高知市内校に負けないような進学に力を入れたコースをお願いしたい。</p>
教育長	<p>資料にも載せているが、地域の中学校から45%しか進学してきていない。これは、高知市内校などに進学し、地元の高校に残っていない状況である。進学に関してもしっかりと対応し、就職希望者にもきちっと対応する魅力ある学校をつくっていくことで、全体の生徒が減る中、地元校への進学率の目標のとおり、65%が地元の高校を選択していただくように努力していきたいと思っている。</p>
保護者代表	<p>最初に発言させていただいた小学校、中学校の保護者への説明会についての提案である。PTAの役員をしている関係で、今日のような会に参加させていただけるのはありがたいが、小学校の方では高校の統合の話が全く出ないのが残念である。計画をみると、今の小学生が統合の影響が出る。それを考えると保護者として、前の見えない高校に進学させて大丈夫かなと思う。それなら、高知市内の高校に進学させることを考えたりする。高校受検の場合、定員や、倍</p>

	<p>率が大きく生徒たちに関わってくるので、中学受検から高知市内校を考える保護者の方もいるかもしれない。そのようなこともあるので、あまりゆっくりせずに、統合するのであればこのような学校になるので是非来てくださいますと言ってもらいたい。また、定員を割らないようにしてもらいたい。須崎高校と須崎工業が統合したが、定員割れという状況になれば、高吾地区の中学生は高知市内の方にますます通学するようになるのではないかと心配する。そのようなことにならないようお願いしたい。</p>
教育長	<p>具体的な細かな内容については統合が決定してからになるが、地元の生徒に選択してもらえるような、魅力ある内容を早急に詰めて説明をしていく。現時点では統合を是か非かを議論しているので、細部の具体的なことについて説明しきれないことが我々としてももどかしいところである。方向性が固まれば、魅力のある学校づくりについてできるだけ早く説明をさせていただきたい。</p>
委員長	<p>我々は、統合、再編について、単なる数合わせではなく、今後の明るい展望をもたらすということに、全力で取り組んでいきたいと思っているので、保護者の方々にご理解をお願いしたい。</p>
鳩友会代表	<p>同窓会としては基本的には反対である。しかし、本日示していただいた資料1の須崎高校、須崎工業高校の入学人数の減少や社会情勢の変化から考えると、諸手を上げて賛成ではないが、統合も考えていかなければならないかと思っている。PTAの考え方を尊重し、協調するところは協調していくのが同窓会の姿勢である。</p> <p>須崎高校の卒業生は1万数千人にのぼり、同窓会は関東支部、関西支部とそれぞれで支部をつくっており、卒業生の皆さんが頑張ってくれている。私どもは支部にお招きいただき、校長先生をはじめ、我々数名がその場に行き、まず須崎高校の校歌を歌い、近況を語り、歓談している。当然この話もそれぞれの支部の方に説明をしなくてはならない。短い時間の中で教育長も言われたように具体的なことに踏み込めないところもあろうかと思う。私どもが須崎高校を卒業して良かったと、統合によって校名がどうなるかは分からないが、この学校で学んで良かったということが大事なことである。委員長が言われたように、工業高校と普通科高校が一緒になった事例があまりない中で進めていくわけであるが、異質のものが一緒になるとメリットもデメリットも出てくる。少し踏み込んだ話をするなら、統合してデメリットがでた時の対応策、卒業生が出るまで3年間、様々なことがあると思うが、人的な配慮も考えてもらわなければならない。教育長にお願したいのは、進学校として拠点となる、かつて橋本大二郎知事が高知追手前高校に力を入れたように目に見える形で実現してもらいたい。これからの踏み込んだ話の中で、資料の3枚で示していただいたことが確実に実行されることを約束してもらいたい。</p>
教育長	<p>工業高校と普通科高校の統合では、メリット、デメリットがある。メリットに関しては、しっかりと活かしていきたい。デメリットについては、先ほど言われたように、教員の配置の問題も含めてやっていきたい。資料にも書かせても</p>

	<p>らっているが、地域で、しっかりした進学の出発点となっていたらいいような学校づくりに向け精一杯努力をしたい。</p>
鳩友会代表	<p>この統合スケジュール案があるが、26 年を今現在として、来年度基本設計、28 年度実施設計、30 年に仮契約があり、30 年施工、31 年の統合案である。何だかの総会とかで過半数以上の反対となり、単独校で頑張っていきたいとなった場合、どうなるのか。この案は、動くものか動かないものかお聞きしたい。</p>
教育長	<p>この会は、そもそも統合が是か非かを含めて意見を頂く位置づけの会である。我々としては「たたき台」を現時点でのベストの案であるとし、内容についても、考え方についても説明させていただいたところである。様々な意見があるということで、この様なかたちで意見を頂いている。これからは頂いたご意見を含めて今の案をどうしていくかを判断していきたい。</p>
鳩友会代表	<p>いろいろと皆さんの意見を聞いてのことになろうかと思うが、我々同窓会として、須崎高校開校時は旧市街地にあったのが現在の場所に移転している。この度の統合になると三回目となる。いろいろ学校を縦割りで考えるのではなく、地域づくり人づくりということを考えると、学校が点々とすることにより地域づくりのこれからの方向性が変わってくるのでそのあたりを考えてもらいたい。もし統合となると現在の須崎工業高校のある大間に移転することになるが、そうすると、現在の須崎高校の校舎を含めて跡地はどのように利用していくのか。</p>
事務局	<p>現在、具体的に校舎をどうするかはまだ決まっていない。今後、須崎市と協議しながら進めたい。グラウンドと体育館は今後も利用していくものだと思う。</p>
鳩友会代表	<p>統合しますよと決まった時点で、跡地の利用法を決めるのか。学校が統合した後地域と話して決めるということか。</p>
事務局	<p>統合が決まった場合にすぐに利用法を決めるのではない。統合が決まった後に協議することになる。</p>
鳩友会代表	<p>地域内の中学校からの進学率を、現在の 45%から 65%に伸ばすと、案で示されている。この地域からは高知市内校への進学者が増え地域内の進学者が減っている状況の中で 20%上げることは至難の業だと思うが、具体的な根拠はどこにあるのか。希望的な数字なのか。</p>
教育長	<p>希望的と言われればそうである。これだけの方に入学してもらわなければ、普通科 3 学級、工業科 3 学級の規模の学校が維持できないということである。学校の維持に向けて、地元の中学生に選んでもらえるような学校づくりを進めていく必要がある。今の指導内容の魅力を向上させることと同時に、中学校との日頃からの連携を図るような取り組みを進めながら目標を実現させていきたいと考えている。</p>
鳩友会代表	<p>保護者会の方も言っていたが、この地域においては、子どもが中学生になると、親が高知市で仕事をしている場合などは、一家で高知市に移転して住んでいる方もいる。地域の過疎化がますます進んでいる。中学校から高知市の学校に行き高知市の高校に通う生徒が多いと聞いている。統合後の方向性等しっかりし</p>

	たものが見えないと、中学受検から高知市に、中学校からではなく小学校から抜けて行く。そのあたりを幅広く見ていただき、議論してもらいたい。統合するのであれば、カリキュラムはもちろん教員配置もしっかりとした案を示してもらいたい。
鳩友会代表	今後、何回ぐらい話し合いを予定しているのか。同窓会の意見を全て吸い上げて今日ここに来ている訳ではないので、このような場を設けていただき、我々の意見を言わせてもらいたい。今後の予定はどうなっているのか。
教育長	今後については、幅広く意見を頂くということで、県内の小中学校の校長会や小中学校のPTAの代表、高校のPTAの代表など全県的な立場の方からの意見を頂くようになっている。その後について詳細は決めていない。
鳩友会代表	子どもとの会合は今後あるのか。
教育長	そのことも含めて今後検討する。
委員長	今後のことで須崎高校の振興のことで心配があらうと思う。互いに協力し合い須崎高校の振興を図り、地域の生徒が進学してもらえるように努力していかなければならない。今日は遠方からおいでいただきありがとうございました。今後とも協力をよろしくお願いします。

○須崎工業高等学校関係者 保護者代表、同窓会代表との意見交換

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (あいさつ)

改めまして、遠路、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

この会は、県立高等学校再編振興計画について、関係の皆様からご意見を伺うということで開催をしているものでありまして、先ほど、須崎高校の関係者の皆様からご意見を伺ったところです。引き続き、須崎工業高等学校の関係者の皆様にご意見を伺うということで、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、県立高等学校の再編振興への対応につきましては、平成23年9月から県立高等学校再編振興検討委員会で協議していただき、昨年2月に報告書を作成しております。昨年度は、その報告書を踏まえまして、具体的な県立高等学校の再編振興のあり方について、教育委員のご意見もいただきながら、事務局において検討を重ね、12月からは公開の教育委員協議会で検討を行い、1月末に、再編振興計画の「たたき台」をお示したところです。

この「たたき台」を発表してからは、再編や統合の対象となっております学校の関係者の皆様を中心に、様々なご意見を賜っているところであります。

このことを踏まえまして、県教育委員会としましては、改めて関係者の皆様等からご意見をお聞きし、丁寧に議論を重ねていく必要があると考え、本日の会を設けさせていただいたということでございます。

本日は、改めて、「たたき台」の考え方や、須崎工業高校と須崎高校の統合後の姿について、より詳しくご説明をさせていただいたうえで、ご意見を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○意見交換

保護者代表	<p>3月18日に同窓会と一緒に要望書を出している。要望書の内容を基本とし、同窓会とも話をしている。どうしても統合しなければならないとなった場合には、現在の工業系の4学科の存続を要望する。校名についても「工業」を残してもらいたい。10年前と比べ、県全体の生徒数は減っているが、須崎工業高校への入学者数は増えている。それが、4学科から3学科に減らすと、生徒たちの選択肢が少なくなり、高知市内の高校に流れてしまう恐れがある。「工業」という名前がなくなると、これまで先輩たちが県内、県外で活躍されているが、企業が求人を募集する際に須崎工業高校の「工業」という名前がなくなることにより求人数が減ることが予想される。実際に校名から「工業」がなくなり、求人が少なくなった例もあるので、このことは考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>4学科の存続については、たたき台では3学科として示している。これは案であるので、具体的には学校の方と協議し、進めていきたい。3学科と決めている訳ではない。</p> <p>校名については、ここで議論することにはならない。計画が決まった後に、別途、協議させていただきたい。校名から「工業」がなくなることによる影響についての意見をいただいた。他県の統合例を調査しているが、実際に校名による影響が出ているか出ていないかについては気にしているところである。須崎工業高校のように就職に向けた実績のある学校、OBの方が非常に活躍している学校についてはあまり影響がないと聞いているが、今後、協議を重ねていく。</p>
同窓会代表	<p>会長である。</p> <p>同窓会としては、この統合の説明を受けるのは3度目である。3月の段階で同窓会と保護者会（PTA）と連名で要望書を提出したが、それについての検討された内容についての回答を受けていない。この時は「持って帰る」と言っていたので、まず、その答えを出してもらいたい。そして、改めて今日の段階で、要望書にプラスアルファして具体的なことも入れながら意見質問書をつくっている。その内容を検討の場で話していただいて、お互いが納得する形で前に進んでいきたいと考えている。今まで須崎工業高校で説明を受けたが、そのたびに、「もって帰って考える」と言うばかりで、何のために説明会場まで足を運んでいるのだろうと感じた。それならばそれで趣旨を伝えればよいが、何も答えない。一方的に説明して帰っていくことに対して不信に思った。ある程度、回答をできる方々が説明の場にいるべきではないかと思う。</p> <p>保護者からも話があり、要望書にも書いているが、同窓会としては、単独校と</p>

<p>教育長</p>	<p>しての存続を要望する。高知における工業高校としての高知工業高校に次ぐ73年の歴史があり、須崎地域の工業高校として存在感も大いにある。こうい うことで単独での存続を認めてもらいたい。4学科を30名クラスで継続し、 存続ができないか。</p> <p>同窓会の中で話をすると、先輩方は、自分の卒業した学校の名前がなくなること に対して寂しさを感じると言っていた。また、生徒数減は間違いない事実で あるが、南海トラフ地震対策については、須崎高校の隣に須崎中学校があり、 新莊川周辺には沢山の人家があるが、高校生だけが助かるのか言われ、私は返 答に困った。そのような地震対策はおかしいのではないかという声があった。 県は県立高校のことだけを考えればよいが、地域はそのような考えではない。 隣に中学校があり山手にはたくさんの人家がある。須崎中学校や地域のことに ついて、須崎市も対応していないし、私としても分かっていないところもある が、ただ生徒数減で、誰がつくったか分からない「適正規模」というものを一 つの定規として物事を計っていいのかと思う。高知独特の地域性で、高 知市は中心的な存在で、郡部は絶えず生徒数が減り、学校も減ってくるので、 逆に郡部の地域の掘り起こしをすべきでないか。これは、教育の場面だけでは なく、経済的な面で考えてもそうでないか、と県外と同窓生は言っていた。県 の施策とは違う方向なのではないかと言われ、私は答えることができなかつた が、うなずきあった。このように、適正規模とか南海トラフ地震対策で、この 統合を進めていいのかとの声が上がっていた。</p> <p>もう一度、文書提案をするので回答をお願いします。</p> <p>今、手元に要望書がないが、趣旨としては単独校として残すことが基本の要望 書を頂いていると記憶している。そのことに関しては、単独で残してもらいた いという気持ちは私どもも理解できる。伝統ある学校を残してもらいたいとい う心情は十分理解している。</p> <p>なぜ統合が必要かとの話であるが、地域、地域により、単独で学校の規模が小 さくなくても残していかなければならない学校がある。例えば、高吾地区でい えば、檜原高校がなくなれば須崎高校への進学になるかと思うが、通学距離が 長くなり過ぎ酷である。そのような地域が沢山ある。そのようなところは小規 模でも残していきたいと考えている。一方、今回統合を考えている須崎高校と 須崎工業高校については、須崎地域の拠点的な学校として考えている。そのよ うなところでは、できるだけより良い教育環境を維持した拠点校として、統合 して一定規模を確保する必要があるのではないかと考える。先ほど、須崎高校 の関係者にも話をしたが、今でも多くの中学生が他地域の高校に進学している おり、須崎市、中土佐町、津野町の中学生が45%しか地元の2校に残ってい ない。今、我々としては、地元の生徒が65%残るようにしたい。そう考える と、一定規模をもった中核的な学校が必要であろうという考えで統合の案を示 している。</p> <p>津波への対応については、中核的な学校をつくりたいという考え方があるの</p>
------------	--

<p>同窓会代表</p>	<p>で、その際に、須崎高校には津波の被害が想定される地域に位置するという ことで、それならばこの際統合させてもらい、津波にも対応できる地域の中核的 な高校にしたいという考え方である。地元の小学校、中学校については、津波 避難対策、耐震対策は須崎市において対応されるであろう。我々としては、拠 点的な地域の学校をつくりたいということがベースにあり、その時に須崎高校 は、須崎工業高校と統合することで津波対策もできるという両面を考えて、今 回の案を示していることについてご理解を頂きたい。</p> <p>副会長であり事務局長である。</p> <p>3月18日に要望書を提出した。この要望書については教育委員の皆さんに届 いているか。届いているようであれば、内容については理解していると思うの で、このことについては、これ以上言わない。</p> <p>我々、同窓会の思いとしては、「校名」、「校歌」にこだわっている。それと同 じように、生徒の進路の問題、進学する生徒もいるが、須崎工業高校は就職率 100%達成を何年も続けている。この太いパイプと校名を残していきたい。県 教委の方は、学校現場で努力することによって何とかカバーできるのではない かとの話があるかもしれないが、現実的に先生方のことを考えると、校名を残 すということも大事なことでないかと感じている。</p> <p>須崎工業高校の生い立ちなどについても述べさせてもらう。寺尾豊さんの私財 と周辺住民の寄付のもとで、高知工業高校に次いでできた県内二番目にできた 工業高校である。須崎市の中で工業科と普通科の統合問題で、須崎市の中でも 意見が二分する。</p> <p>この時代になって人が減ってきて、現場の労働力が減ってきているとマスコミ で報道されている。実際に戦後の混乱期の中で須崎工業高校の卒業生、同窓生 の皆さんが非常に頑張ってきた。その中で、今の日本の生活水準があると感じ ている。同じことを言うようになるが、先輩方にも自負があるので、そのあ たりも十分検討していただきたい。先ほどから説明していただいたが、今回の 統合は非常にメリットがあるように資料には書かれているが、果たして、工業 高校と普通科高校が統合してそれだけのメリットが出せるものか、我々は心配 している。後ほど、この意見質問書も書面で提出したい。</p> <p>現状の統合については、全国の過疎地域で20校の工業科と普通科の統合例が ある。その状況や現状の進行具合を十分に県教委の方は検討されているのか。 先ほど、検討されているとのことであつたので、検討されていると思うが、工 業科と普通科との統合で、本当に上手くいっている学校があるのか。この件に ついては県議会でも西内議員から質問があつたが、我々は、高吾地区の拠点づ くりとしての高校の統合の提案を頂いているが、どのような学校をつくるの か、絵に描いた餅ではなく県教委の強い意志、こういう学校にしていきたいと いうような熱意が我々に伝わってこない。このような状況で統合し、成功すれ ば良いが、失敗した時には地域住民もがっかりするし、生徒が一番迷惑する。 生徒数の減少で適正規模が維持できなくなった。津波の問題がある。それによ</p>
--------------	--

<p>教育長</p>	<p>って統合ありきの論議でなく、高吾地域の行く末や教育を考えた、もっとしっかりした高校づくりを考えてもらいたい。</p> <p>校名、校歌については、強い思いをもたれていることは十分理解している。いずれにしても校名、校歌について具体的に検討するのは、統合すると決まってからである。須崎工業高校の関係者がそのような思いをもたれていると同時に、須崎高校の関係者も同じ思いをもたれていると思う。両校の関係者が最終的に納得した形のなかで、校名や校歌を考えなければならない。今の段階の話ではなく、統合が決まった後、関係者で議論していかなければならないと考えている。</p> <p>しっかりした高校をつくってもらいたいということについては、方向性のことは資料2に記載しているが、具体的な中身の話になると、まだ統合が最終的に決定していないので、両校の関係者の間で具体的な話を詰めるまで至っていない。細かな形での内容については示すことができないが、記載している方向性で実現できるように教育委員会としても最大限努力していくことを約束したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>他の都道府県の情報収集はもちろん行っており、当然、メリットもあればデメリットもある。</p> <p>メリットとしては、普通科と工業高校の強みを生かした学習指導や生徒指導の充実である。例えば工業科の場合は、国語、数学の時間数が少なく、数学は教諭一人と講師など、多くても二人である。統合すると数学の教員も増えてくるので、基礎学力の指導や、大学や専門学校を目指す生徒への進学補習などが強化される。普通科にとっては、工業高校の就職率100%の裏付けとなる、日頃からの保護者の方々と先生方によるマナー指導ができるようになるなど、それぞれが良いことを活用していくことが考えられる。</p> <p>また、生徒数が確保されるので体育祭や文化祭の活性化が図られる。</p> <p>資料2には両校の部活動を掲載している。例えば須崎工業高校で強い部活動があり、須崎高校にも強い部活動があるが、統合により相乗効果で部活動が活性化する。地域からの進学率を65%に上げたいと思っているが、具体的な数字を把握していないが、部活動が原因で地域外に進学している場合もあると考えられる。部活動が活性化することにより地元の中学生が行きたいと思える学校になることも考えられる。</p> <p>また、男女のバランスも良くなるので高校生として異性の考え方を尊重することにもつながり、統合を機に老朽化していた校舎、施設を更新し、施設設備の充実につながったということも聞いている。</p> <p>デメリットとしては、生徒同士は統合してもさほど問題がないが、一方で、学校の文化が違うので行事一つにしてもいろいろと苦労があると伺っている。解決策としては統合前からしっかりと両校の教員、同窓会の意見を聞きながら協議し、統合後のイメージを議論してすり合わせて行くことが大切であると伺っているので見習って進めていきたい。</p>

保護者代表	<p>P T A副会長である。</p> <p>先ほどからあがっているが、資料2の地域内の進学率を45%から65%以上を目指すとの話があったが、これとは逆に、4学級から3学級ということで学級数を減らそうとしている。保護者が高校を選ぶ時に部活だけで選ぶわけではない。学科が1つ減ることで、1つ選択肢がなくなる。統合して進学率を45%から65%以上に増やすことを目指すのであれば、もう1つ学科を増やすぐらい4学科から5学科を増やすぐらいに考えてもらいたい。地域の中核を担わせてもらえるのであれば今よりも大きくして欲しい。学科を減らしておいて進学率を上げるといわれても、選択肢を減らされると生徒は外に出て行くしかなくなる。案であるので、是非とも普通科の3学級を含めて考え方を検討し直して欲しい。</p>
教育長	<p>中学校を卒業する生徒数が減っていく中で、地域の生徒の進学率を45%から65%位に増やしたとして、維持できる学級数というのがこの6学級規模であり、普通科、工業科合わせて6学級である。学級数については厳しいものがあるが検討させてもらう。一方、学科については意見を頂いたので検討したい。</p>
保護者代表	<p>須崎高校の関係者の意見にもあったが、当面問題になるのは小学生の保護者である。小学生の保護者の代表者を集めていただき、このような協議会を開いてもらいたい。須崎工業高校の関係者と須崎高校の関係者との協議会も設けてもらいたい。</p>
同窓会代表	<p>学校の運営で一番苦心したのが生徒数である。中学校からの志願者がどの位いるのかが学校として問題になるところである。それは、その高校にどれだけ魅力があるかに尽きる。魅力の無い学校に中学生は希望しない。しかし、学校に魅力があれば、中学校の方から、そして中学生の保護者から噂が流れて入学志願者が決まってくる。学校に魅力があるということが前提にならないし、発展していかなければならないと思う。須崎工業高校の魅力は何かと言えば、第一に、就職率100%であり、大学の卒業者でも入社できないような会社に入っている。立派な会社に就職している卒業生がたくさんいることは大変魅力的なことである。高校卒業者が就職する数はだんだん減ってきている。須崎地区の場合は、高知市内と若干異なり、家庭の経済的な理由もあり、少しでも早くしっかりしたところに就職させて家計の足しになって欲しいという家庭があると思う。そのような家庭は、高知工業高校へ行くとすると交通費がかかる。そうすると須崎工業高校になる。須崎工業高校は高知工業高校に次ぐ二番手の工業高校であるので、高知工業高校と何ら変わらないイメージを企業はもっているのではないかと。会社の方は、須崎工業高校の卒業生は素直で一生涯懸命仕事をするという良い風評があり、次々と卒業生を採用してくれる。進学にしても進学希望の生徒は工業の専門系を勉強して、大学ではそれを活かした工業系の学部に進学している。大学を卒業すると一流企業に就職する一つのルートができています。進学は3割である。須崎工業高校の魅力はそのようなことではないか。また、先生方も大変意欲的にやっている。</p>

	<p>私自身、自分の母校であるので大変大事に思っている。統合した場合、一番問題となるのは、校名である。須崎工業高校がなくなるのではないかと、例えば「須崎総合高校」とかになるのではないかと思っている。「工業高校」という名前を残してくれと要望しても、そのようにいかないのではないかと私自身は考えている。須崎工業高校卒業生は須崎工業高校ののれん、須崎高校の卒業生は須崎高校ののれんがあり、これが心の中にある。校名を変えることになると同窓会はなかなか納得せず、説得は難しいと思っている。校名が引っかかっている。この統合案では1学年6学級になるが、現在の須崎工業高校の施設は4学級分しかないので、あと2学級分必要であるが、それはご存じか。須崎高校の場所が場所であるので、県というより須崎高校が戦々恐々されているのではないかと。須崎高校の場所があんなままであれば、まともに津波が来てしまうので、本格的に場所を考えなければならない。</p> <p>とにかく、我々は須崎工業高校の校名が残ることを考えている。</p>
保護者代表	<p>P T Aである。</p> <p>地域の進学率を45%から65%位に増やしていくために統合する事は分かる。この地域からは、だんだんと高知市内校に進学していく傾向が強くなっている。私の地元もそのような傾向になっている。時間的にも高知市内に行きやすくなり、親に余裕ができたのだと思う。しかし、高知県全体のことを考えた学校の配置とか定員を考えていかなければ、ますます高知市に集中していくのではないかと。実際、統合して65%を目指しているが、実際は30%になるようなこともあるのではないかと心配する。子どもを増やすことは難しい。須崎市で1校無くなることによって、ますます高知市内に通わなくてはならなくてはならない人が増えるのではないかと心配する。そこを県としてどう考えているのか。例えば檜原高校の生徒数が少なくなった場合の事も含めて考えてもらいたい。</p>
教育長	<p>今回の再編振興計画案では県全体の中学校卒業生数の動向、地域、地域でどうあるべきかを考え全体的なことを睨んで検討している。</p> <p>例を上げると、嶺北高校は中山間地域の学校で、一時かなり高知市内校への進学率が高かった。しかし、最近、地域と学校が連携した活動や生徒が地域に関わるような活動とともに、中高の連携を日ごろから重ねることで、徐々に地元に着する中学生の率が増えたという例がある。</p> <p>今の案は、地域からの進学率を45%から65%に引き上げることでやっと考えられる6学級の維持である。魅力ある学校でないと進学志望してくれないので、これからもっと地元の中学生が希望してくれるような学校づくりを県として一生懸命していきたいと思う。</p>
同窓会代表	<p>最後に心配に思う点を言いたい。</p> <p>須崎工業高校と須崎高校の校風の問題である。両校はまったく違う。工業高校は縦割り社会、普通高校は横割りである。やりようによっては上手くいくかもしれないが、全然性格が違う学校が一緒になるわけである。夫婦のようなもの</p>

<p>委員長</p>	<p>で、好きで一緒になった場合は仲良くやると思うが、嫌々勧められた縁談は嫌になることもある。工業高校と普通科校の校風の違い、学校の違いなどをもう少し深く調査をしてもらいたい。具体的に、この学校は、このようなことで実績をあげている、苦勞しているなど、良い話ばかり聞かずに調査してもらうよう、県教委の中で検討してもらいたい。本当にこの統合を進めるのであれば、みんなが幸せになれるような統合にしてもらいたい。これは個人的な思いであり、同窓会としての意見ではない。</p> <p>保護者の方、同窓会の方の思いは受けとめた。ただ、生徒数が減っている中で高等学校教育の振興をどのように図っていくのかの視点で、今日の意見を参考にしながら検討していく。</p> <p>今日は遠方から多くの方においでいただきました。ありがとうございました。今後ともご協力よろしく申し上げます。</p>
------------	--